

第7回 建コンフォト大賞

あなたのお気に入りの“土木施設”

当協会では、広く一般の方々の土木施設への興味を高め、建設コンサルタントをより知っていただくために、平成21年度よりフォトコンテスト「建コンフォト大賞」を毎年開催しています。「あなたのお気に入りの“土木施設”」をテーマに、道路や橋、鉄道、上下水道、空港や港、公園や堤防など、私たちの日常生活を支える土木施設のある風景を撮影いただきました。

平成27年度も、当協会ホームページやフォトコンテストに関する情報提供サイトへの掲載、全国の公共図書館や高校写真部へのポスター配布などで作品を募りました。

その結果、全国の幅広い年齢層の方々から312点の応募をいただきました。

審査方法

ご応募いただいた作品は、審査委員（5名）および当協会広報事業専門委員会による審査会にて審査しました。

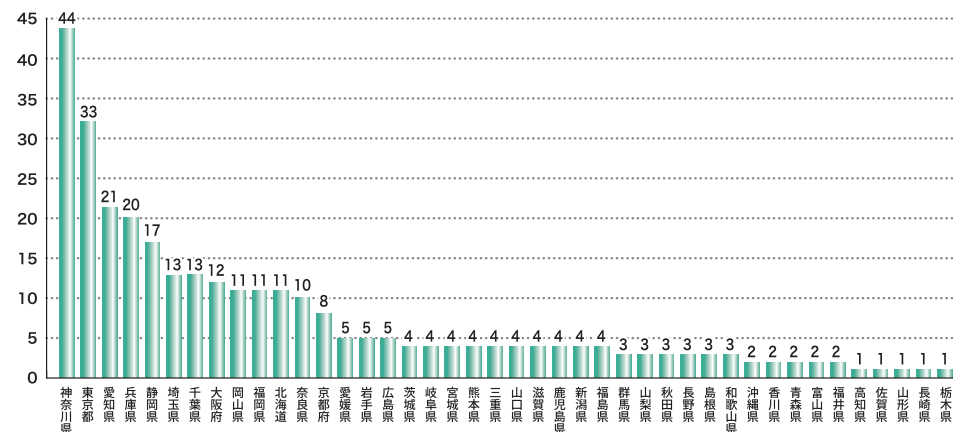
審査結果

最優秀賞1点、優秀賞2点、特別賞10点を決定しました。入賞作品と講評は次ページ以降に掲載するとおりです。

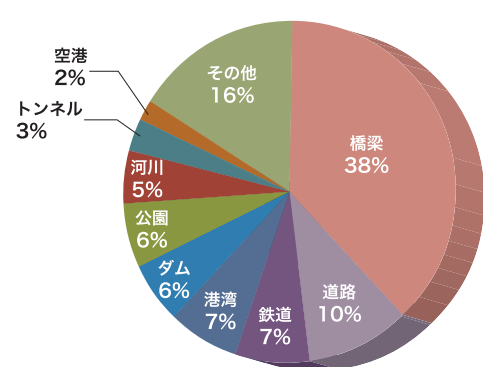
審査委員

審査委員長 伊藤 清忠（東京学芸大学名誉教授）
 審査委員 宇於崎 勝也（日本大学准教授）
 知野 泰明（日本大学准教授）
 初芝 成應（日本写真作家協会員）
 村田 和夫（建設コンサルタンツ協会広報戦略委員長）

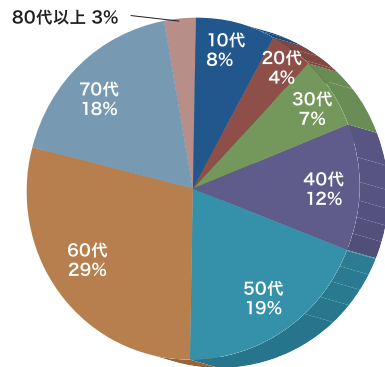
地域別の応募者



写真撮影の対象



応募者の年代



最優秀賞

「そろい踏み」

福井県 大谷 繁一
 （撮影地：福井県吉田郡永平寺町）

【撮影者のコメント】

福井平野を潤す九頭竜川、そこに位置する鳴鹿大堰の魚道に遡上する鮎を撮影しようと出掛け、たところ、写真のようにアオサギが餌を求めて魚道に並んでいるではありませんか。普段2羽から3羽程度は目にする時がありますが、こんなに見事にそろい踏みしているのは初めてでした。思わずシャッターを切った1枚です。



講評

九頭竜川に位置する鳴鹿大堰の階段状魚道の各段に遡上する鮎を待ち構える静止した8羽のアオサギの群れと、その背後の暗い壁面をバックに舞い降りるアオサギの白い翼との形態を効果的にいかしている。（伊藤審査委員長）

魚道を遡上する魚を求めて整列するように並んだサギと、今まさにその列に加わろうとする1羽の瞬間がとらえられている。魚道の主役がまさに彼らであるかのような意外な光景で、魚道が機能してる点も興味深い。（宇於崎審査委員）

サギ達の餌場となった土木施設。競泳のスタート台とも言えそうです。捕食の1位は第何コースだったのでしょうか。飛来して加わるサギがまた、印象的に活写されました。（知野審査委員）

仲良く魚道に整列して、通過する鮎をじっと待ち受けて餌を取るアオサギと、空きスペースをめがけて着地寸前の美しい羽根を広げた傍らで、既に鮎を仕留めたサギの静と動の極めて稀な構図に遭遇した、その機会を逃さず瞬時に捉えた見事な作品です。（初芝審査委員）

九頭竜川右岸の鳴鹿大堰の魚道である。可動堰の改修に伴う魚道整備の効果を端的に示している。また、飛翔しながら降りてくる動の瞬間と餌を狙うサギの静とが見事な対比となっている。（村田審査委員）

優秀賞



「宙^{そら}仰ぐPC橋」
滋賀県 福田 尚人
(撮影地：福井県敦賀市)

【撮影者のコメント】

敦賀衣掛大橋（PC5径間連続波形鋼板ウェブ箱桁ラーメン橋；全長570m）は、舞鶴若狭自動車道「若狭美浜IC～敦賀JCT」間の国道8号、JR北陸本線、笙の川、北陸電力高圧送電線等の重要インフラを跨ぐ橋梁として建設されました。空気の澄む冬の新月の夜、国内最大級の波形鋼板ウェブのスパン（160m）と、ハイビア（高さ63m）が強調されるようにカメラポジションを微調整して撮影しました。

講 評

舞鶴若狭自動車道、敦賀衣掛大橋の上部工を強固な橋脚で支える状態を異なる色彩で表現している。シャッタースピードをバルブで星の流れを見事に表現しています。（伊藤審査委員長）

新月の折に天空に輝く星の動きが長時間露出によって線状にとらえられ、人工のPC橋の曲線が微妙な角度でその宙を切り分け、自然の動と人工の静が見事に融合している。（宇於崎審査委員）

星空が描く大輪と直線を描く高架橋が重なって、不思議で美しい瞬間となりました。宇宙へ旅立つ銀河鉄道ならぬ銀河自動車道。設計者の感想が聞きたくなる作品です。（知野審査委員）

動く星軌跡のブレを抑えるため、かなりの長時間露光で星空と土木構造物を撮影し、真近の橋梁を袈裟切りの如く広角レンズで捉えて 満天の星が降り注ぐ夜空を演出している難易度の高い作品です。（初芝審査委員）

天に広がる青い空間と橋脚の虹色の変化が端正な橋梁の姿を強調している。澄んだ空気が画面から伝わってくる。（村田審査委員）

優秀賞



「暮れゆく堰堤」
神奈川県 松山 進
(撮影地：東京都稲城市)

【撮影者のコメント】

多摩川の大丸堰堤には魚道があり、鮎などが遡上し、それを目当てに多くの鳥たちが集まってくる。また、やや上流にはその鳥たちのねぐらもあり、この日も既に沢山の鳥が羽を休めていたが、暮れゆく堰堤上にアオサギが1羽、佇んでいたのが印象的だった。

講 評

多摩川にある大丸堰堤の魚道を遡上する鮎などを目当てに多くの鳥たちが集まり、鳥たちのねぐらもやや上流にある。暗い護岸をバックに白い鳥たち、明るい水面をバックに逆光でアオサギが1羽佇んでいる対比が効果的です。（伊藤審査委員長）

中国の山水画のような光景で、静寂さが伝わってくるかのように感じる。奥の河畔には多くのサギが休息し、手前の堰堤には物思いにふけるかのような1羽が佇んでいる姿が印象的。（宇於崎審査委員）

古写真に彩色したようなノスタルジックな風景です。水を湛えるのは主人公の転倒堰。堰板からの流水は上部の静けさに比して激しさを演じています。水の表情を変える土木構造物が水墨画のような世界を生み出しました。（知野審査委員）

霞かかる遠くの山やまに薄いオレンジ色の日が落ちた晩秋の堰堤に、微動だにしないアオサギ1羽が獲物を獲ようとしているのか、よそから来たよそ者なのか距離を置く対岸の仲間と、沈む夕闇に映し出された孤独な影が厳しい冬の到来を漂わせている味のある作品です。（初芝審査委員）

水墨画のような作品である。50年以上を経た堰の落ち着いた佇まい、堰上流の静かな水面と下流の流水の対比、静寂を感じさせる風景は東京近郊とは思えない。（村田審査委員）

特別賞



「海への招待」
沖縄県 中西 康治
(撮影地：沖縄県竹富島)

【撮影者のコメント】

かつては港として使われていた旧い桟橋。今は美しいサンゴ礁のながめへとぎざなう遊歩道として、多くの人を楽しませている。歴史を刻んだフォルムも、実にいい感じ！

講 評

サンゴが覗ける真っ青な海と遠く前方に真夏を感じさせる白い雲の塊、そしてどこまでも広く蒼い空を一体化した自然の美しさを惜しみなく捉えている。今は遊歩道となっている何もなかった港は、南国の雰囲気を感じ出し、今も僅かに船の係留を見る開放的な作品です。



「紅葉に彩られ」
神奈川県 小澤 宏
(撮影地：神奈川県足柄上郡山北町)

【撮影者のコメント】

この日は紅葉が最盛期を迎え、天候に恵まれ素晴らしい風景でした。色とりどりの紅葉に囲まれ、池にその姿を映す三保ダム、まさに絶景です。

講 評

秋真っ盛りの紅葉に包まれた美しいダム付近の風景の作品です。特にこの美しい自然の環境に溶け込んだ本来敵つてはずのダム構造物だが、ダムの姿は美しいと思いたくなるデザインと、ひときわ目立つ白く塗られたダム上部のカラーが目とを和ませる美しい紅葉時期の作品です。

特別賞



「静かなる洪水ー試験湛水ー」
奈良県 江上 良二
(撮影地：和歌山県日高郡印南町)

【撮影者のコメント】

ダム完成後の試験湛水における最高水位（サーチャージ水位）時の夜景です。二度と見るこのできない光景です。運用中には、ここから水が流れることはまず無く、また流れたとしても、このような穏やかな光景の中ではないでしょう。

講 評

ダムを稼働させる直前の機能確認を行うための試験湛水時、最高水位から常時満水位に至る間の夜間放流の珍しい写真である。当該ダムでは2週間を要している。夜間のライトアップがダムの美しい輪郭を明確にしている。



「ひつじ村」
和歌山県 中村 光雄
(撮影地：和歌山県和歌山市)

【撮影者のコメント】

港湾建設用の消波ブロックが夕日をあびて、羊が行列で行進しているようだ。

講 評

荒波に耐えて消波するブロックたち。「ひつじ」はデザインのモチーフだったのでしょうか。出番を待つひつじ達は、穏やかな表情にて待機中。屈しないという自信すら感じます。

特別賞



「支える構造美」
神奈川県 上飯坂 真
(撮影地：東京都江東区)

【撮影者のコメント】
タぐれの空のきれいなグラデーションを背景に橋を撮影してから帰ろうと歩いていたら、ふっと橋の下の柱が道路や車を支えるだけなのに、その形やラインがきれいで写真を撮りました。

講評

漆黒の背景に照明で浮かび上がるカーブして直進する道路を支える構造物の形と色彩が見事に調和しています。その美しさは現代の材質と形を照明で見事に表現され、現代を代表する美しさです。



「百年映す影」
高知県 雪本 信彰
(撮影地：高知県長岡郡大豊町)

【撮影者のコメント】

明治44年4月、吉野川上流に完成した鉄の旧国道橋、104歳。イギリス式と呼ぶ煉瓦積み六角柱のユニークな橋脚が目を引きます。昭和33年に下流側に新橋ができた後も、数年前まで人と自転車が通りました。今は通行不可。明治期の鋼橋で現存するのは全国的にも珍しいそうです。四国の山間に残る近代化遺産だと思います。撮影日は晴れ。正午ごろ、橋脚の南面に橋の影がピタッと重なって映りました。十字の段状に見え、感動しました。

講評

明治期の鋼橋、レンガ積橋脚。数年前まで人と自転車が通行し、今では使用できなくなったとのこと。橋脚の南面に橋の影が十字の段状に映ったところに感動したとの撮影者のコメントのとおり、近代遺産(レガシー)になったばかりの土木構造物である。

特別賞



「もうすぐ繋がる」
神奈川県 岡本 芳隆
(撮影地：静岡県静岡市)

【撮影者のコメント】

静岡市清水区吉原は富士山が見える景勝地です。眼下に雲海が広がることもしばしばあり幻想的な風景が広がります。高速道路が整備され便利になるのは良いことですが、写真を撮る者としては少し残念な気もしていますが、またその反面違った景観を見せてくれることを期待しています。「中部横断自動車道」の静岡県、山梨県区間が開通すれば撮影にも大変便利になり大いに期待しています。

講評

♪「頭を雲の上に出し、四方の山を見下ろして」そんな視点をなす土木構造物が我が国にもあることを知りました。歌の主演と共に雲海を見下ろす稀少な1枚です。



「全線開通の日」
岩手県 有田 勉
(撮影地：岩手県大船渡市)

【撮影者のコメント】

南三陸リ阿斯線の駅は山間の開けた所にあり、まわりに民家が点在し、近くには自然と海がある。このたびの震災でも駅や線路がいたる所で寸断され、車で病院や買物に行くにも曲がった道を運転しなければならない。高齢者はどれほど不便な生活をしいられたことか。平成26年4月5日全線開通し老人や子供たちは甫嶺駅を利用して金石市や大船渡市に買物や病院に行くことが出来て便利になり大喜びしている。

講評

津波被害から集落を守るため、新たな土木構造物上に設置された三陸鉄道南リ阿斯線の甫嶺駅。全線開通によって利便性を取り戻す駅に集まる人々の歓喜が感じられる。

 特別賞



「スカイツーリング」
愛知県 長谷川 敏則
(撮影地：静岡県掛川市)

【撮影者のコメント】

掛川市はサイクリングの盛んなところであり、毎年100kmツーリングが開催されている。そのコースの途中に潮騒橋がある。この橋は大変ユニークな形式であり、また自転車橋が橋を渡って行く光景がとても好ましく、毎年撮影にきている。遠州灘からの潮風に悩まされながら撮影した1枚である。橋の形式もさることながら、角度や視点場を変えてみると、色々な表情を見せてくれる。被写体として飽きない構造物である。

講評

サイクリングが盛んな静岡県西部の城下町掛川市にある上落式吊床版橋です。毎年開催される100kmのツーリングの参加者がユニークで力強い構造の潮騒橋上を、遠州灘からの潮風に対峙ゴールを目指しています。



「今日の主役」
北海道 飯高 光紀
(撮影地：北海道札幌市)

【撮影者のコメント】

定山溪ダムは、190万札幌市民の水がめとして25年間市民生活を陰で支え続けてくれました。今日は、供用開始25年を祝いライトアップされた主役です。四半世紀にわたる私たちへの水の供給に感謝し、また、明日からの変わりのない働きを願い晴れの姿をカメラに収めました。

講評

普段、力強く屹立するダムが夜景の中で均等なセルリアンブルーに染まり美しい。供用開始四半世紀を記念してライトアップされたダムが水面に映りこみ幻想的な風景となっている。

[入賞作品マップ]

